

長崎シンポジウムへのメッセージ

長崎大学核兵器廃絶研究センター開設記念シンポジウム「核兵器のない世界を目指して—長崎から世界へ」の開催に当たり、激励のメッセージをお送りします。

この度は、長崎大学に「核兵器廃絶研究センター」が開設され、その開設を記念してのシンポジウム「核兵器のない世界を目指して—長崎から世界へ」が開催されることを、心からお慶び申し上げます。

長崎は、私にとっては、忘れられない地です。

その第1は、2008年8月8日に、当時、岡田克也・衆議院議員が会長、私が事務局長を務めていた民主党核軍縮促進議員連盟が、長崎の地で「北東アジア非核地帯条約案」を発表させてもらったことです。この条約案は、この度「核兵器廃絶研究センター」のセンター長に就任された梅林宏道博士が、NPO 法人「ピース・デポ」からその構想を発表されていた「スリー・プラス・スリー」の構造を基本にして立案されたものです。発表後、NPT 再検討会議準備会合のサイド・イベントで提唱したり、日韓国會議員との協議を重ねて共同声明で支持の拡大を訴えたりしています。現下の厳しい北東アジア情勢の中では、条約案の実現には困難な道のりが予想されますが、引き続き実現に向けて粘り強い活動を続けて参ります。

その第2は、2010年8月7日に、長崎市等の主催で開催された国際平和シンポジウム「核兵器廃絶への道—2010年ナガサキ」にパネラーとして出席させてもらったことです。そのシンポジウムでも、「北東アジア非核地帯条約案」について市民の皆さんの支援を訴えましたが、その時に、私の父親のことも皆さんに御紹介しました。父は、広島で被爆しましたが、私たち兄弟は、子供の頃にその話を聞いたことがありませんでした。世の中の目を気にしていたからなのか、2世、3世に不安を感じさせたくなかったからなのかもしれません。その父も、昨年5月に他界いたしました。私としては、父の思いを忘れることなく、核廃絶に向けて努力していきたいと思えます。

以上のように私にとって思い出深い長崎の地に、「核兵器廃絶研究センター」が開設されたことは、今後の私たちの活動に勇気と励みを与えてくれるものであると、心から感謝申し上げたいと思えます。と同時に、今回のシンポジウムの開催が、核廃絶に向けての新たな活動の第一歩となることを大いに期待したいと思えます。

シンポジウムの成功を祈念するとともに、ご臨席の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます、激励のメッセージとさせて戴きます。

2012年（平成24年）4月18日

衆議院議員・前法務大臣、PNND グローバル評議員 平岡秀夫